山佐交流センターだより

２０２０年（令和２年）　９月発行号

発行日　令和 ２ 年　 ９月１８日

発　行　山佐交流センター　TEL(FAX) 35-0129

上山佐のイメージキャラクター
「てんばごん」

８月末の上山佐人口＝ ３４９人（対前月比： △１人、対前年同月比 △２１人）

シリーズ「人口問題を考える」～人口３５０人を下回りました

先月末の人口３４９人と、ついに３５０人を割り込んでしまいました。５００人を割ったのが２００８年４月で498人、４５０人を割ったのが２０１２年１２月で４４８人、４００人を割ったのは２０１８年の４月で３９８人という推移です。５００人から４５０人未満になるのに４年８カ月、４５０人から４００人未満になるのに５年４カ月かかっていたのが、わずか２年４カ月で４００人から３５０人未満になってしまいました。

２０１５年１１月の山陰中央新報の記事で「集落消滅」とのタイトルがついたことで大騒ぎになったことがあります。決して消滅候補地という意味ではなく「住民に危機感」とあるように、「危機感を持った地域」と肯定的に紹介してもらったということです。人口が減少して困るのは、それがもたらす集落機能の低下です。買物や医療機関への通院が困難になることなどはもとより、例えば切れた電球の取り換えやちょっとした家の補修や家の周りの草刈など、若い人には何でもないことが一人暮らしや高齢者世帯には重くのしかかってきます。

人口減少は今後も当分続いていくことでしょう。そしてそれはここ上山佐だけでなく大多数の中山間地域にとって、あらがえない事実です。今後、当面は人口が増加するということはもちろん、人口数の現状維持などということは絶対（と言って良いほど）不可能です。そして物理的に人口がゼロになるだけではなく、生活していく上での集落機能が働かなくなった状態についても「集落消滅」と言えるのではないでしょうか。

集落「消滅」住民に危機感

安来・上山佐地区

高齢化40%

スーパー閉店

中学校閉校…

人口減少が進む島根県内の中山間地域で、スーパーの閉店や学校の統廃合などによって、生活に必要な機能やサービスが失われつつある。放置すれば、さらなる人口減少やひいては集落消滅につながりかねず、維持に向けた議論は避けて通れない。危機感を抱く住民が将来像を模索している県東部の山あいの町・安来市広瀬町の上山佐地区を訪ねた。

（尾添大介）＝１面参照

人口減少で、日常生活に必要な機能・サービスが縮小する安来市上山佐地区。地区唯一のスーパー（手前）は閉店し、中学校（奥の校舎の一部）も閉校となった

安来市中心部から南西へ約20㌔、県営山佐ダムの下流の川のせせらぎが聞こえる中、県道沿いに平屋が目に入ってきた。

壁には「山佐マーケット」の文字。人の気配はなく、カーテンが閉まったまま。ＪＡなどが運営し生鮮食品や日用品を販売していたが、６年前に閉店。地区唯一のスーパーマーケットが消えた。

「どんどん衰れて（日常生活の機能が）なくなっていく」―。80年以上暮らしむ一人暮らし岩田悦子さん(88)がつぶやいた。

七つの集落で成る地区人口は427人。30年前に比べ200人余り減り、高齢化率は40%。このままでは2040年に、ほぼ半減の229人、高齢化率は80%近くに達する。

スーパーだけでなく、8年前に中学校が閉校し、駐在は、5年前に廃止となった。郵便局などはまだあるものの、診療所はもともと他地区に頼っており、不便さは増している。危機感から、将来を見据えた動きを既に起こしている。

11年に、地区の中心部にある交流センターに「コミュニティ再生会議」を設立し、膝詰めで会合を重ねた。

最大の課題は、人口減

最小限の機能確保模索

交流センターからの各種お知らせです

９月１１日、今年度初めての交流センター運営協議会を開催し、次のことが決まりましたのでお知らせします。

①文化祭は中止になりましたが、それに代わる展示会を開催します（１１月上旬で数日間、会場は旧上山佐小学校校舎。詳しくは後日新聞折込のチラシでお知らせします）。

②地域の皆様からご負担いただいている交流センター運営費（一戸当たり2,000円）について、今年度は中止や縮小する事業が多いので返金する必要がありますが、最終的な必要額を見極め、来年度の運営費で調整させていただきます。

③交流センターから助成金を支出している団体についても同様ですので、今年度の助成金額はそのままにして、来年度の助成金の額で調整させていただきます（協議の場を１月以降に設定）。

④７月発行の交流センターだよりに掲載していた交流センターの名称変更（山佐交流センターから上山佐交流センターへ）、運営協議会でも同意いただいたので、今後市へ要望に行きます。

また運営協議会は各種団体長の方が参画されているので良い機会ととらえ、当日「火災時の避難訓練」を抜き打ちで行いました。職員が不在の夜間や休日に交流センターをご利用いただく方も多いと思います。交流センターにおいでの際は、避難経路や消火器の位置などを確かめておいていただくよう、お願いいたします。火災の通報は、携帯電話でも「１１９」でつながります。

（写真は訓練で屋外に避難する参加者の皆さん）

公民館の歴史（運営費）についてちょっと解説

７月発行号で、山佐交流センター（公民館）の歴史を掲載しました。そして今月の上段の記事では、交流センターへの運営費のことを書いています。今回は地域の皆さんから交流センターに運営費をご負担いただいていることについて解説してみたいと思います。

公民館は、昭和２４年に施行された社会教育法により制度化されました。この法律の制定に中心となって携わられた寺中作雄さんが当時書かれた解説書には「町村民がこぞって公民館の維持運営のために寄付するような習慣を養うようにし、（中略）資金面で円滑に公民館が立ち行けるような方法を講ずるのがよい。」とあります。更に法律の施行に先立ち、そうした方法を推奨する通達も出されています。

山佐公民館が設立された昭和３０年以降、その通達を受けて「運営費」という名目でご負担いただくシステムができあがったのか、今となっては知る由もありませんが、今後ともご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

10月	地域行事・交流センター行事などの予定
1 木	健康体操、カラオケサークル、てんばこどもクラブ
2 金	てんばこどもクラブ
3 土	
4 日	
5 月	健康体操
6 火	
7 水	てんばこどもクラブ
8 木	健康体操、てんばこどもクラブ
9 金	てんばこどもクラブ
10 土	
11 日	
12 月	健康体操
13 火	
14 水	てんばこどもクラブ
15 木	健康体操、カラオケサークル、てんばこどもクラブ
16 金	てんばこどもクラブ
17 土	
18 日	市長選挙等投票日
19 月	健康体操
20 火	
21 水	クロリティ・スカットボール、てんばこどもクラブ
22 木	健康体操、てんばこどもクラブ
23 金	てんばこどもクラブ
24 土	
25 日	
26 月	健康体操
27 火	
28 水	ニコニコサロン、てんばこどもクラブ
29 木	健康体操、てんばこどもクラブ
30 金	てんばこどもクラブ
31 土	

（予定は変更になることもあります）

【御　礼】　森口の故鴨木正視様の息子さんの啓祥様から、香典返しのご寄付をいただきました。

誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

【編集後記】　今年の梅雨はいつもより遅く７月末に明けたものの、その後今月の第一週までの約４０日間、猛暑に見舞われました。例年だと７月２０日ころ梅雨明けし、盆明け位には涼い秋風が吹くとすればその間は約１月。いつもより１０日間ほど長く続いた暑い夏でした。その暑さも一段落し、この地域では稲刈りシーズン真っ最中です。梅雨が長引いても、猛暑が続いても実りの秋がやって来る幸せ。このことに感謝しながら、日々生活していきたいものです。